

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報(A)

昭62-126055

⑫ Int. Cl.⁴
B 65 H 3/62

識別記号

庁内整理番号
7456-3F

⑬ 公開 昭和62年(1987)6月8日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 シート部材剥き装置

⑮ 特 願 昭60-268095

⑯ 出 願 昭60(1985)11月28日

⑰ 発 明 者 小 野 秀 一 京都市伏見区羽束師菱川町351番地 日本たばこ産業株式会社関西工場内

⑱ 発 明 者 宮 北 嘉 方 東京都北区堀船2丁目20番46号 日本たばこ産業株式会社機械製作所内

⑲ 出 願 人 日本たばこ産業株式会社 東京都港区虎ノ門2丁目2番1号

⑳ 出 願 人 株式会社三條機械製作所 新潟県南蒲原郡栄町大字猪子場新田1300番地

㉑ 代 理 人 弁理士 吉井 昭 栄 外1名
最終頁に続く

明 細 書 3

1 発明の名称 シート部材剥き装置

2 特許請求の範囲

複数枚の層状に重なり合うシート部材を底板部材及び前後の側板部材を備えた収納部に入れ、開るシート部材を開くものであって、上記底板部材を振動可能に支持する支持部材を上下振動可能に設け、底板部材を振動する振動機構を設け、支持部材に上記前後の側板部材を前後振動可能に設け、支持部材の振動位置に拘わらず前後の側板部材を定角度に保持する姿勢保持機構を設けて構成したことを特徴とするシート部材剥き装置。

3 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はシート部材剥き装置に関するものである。

〔従来の技術〕

従来この種シート部材たとえば包装用板紙の剥き装置としては種々知られている。

〔発明が解決しようとする問題点〕

しかしながら、いずれの従来構造のものも剥き作用が満足されたものではなく、このためシート部材の繰出不良に伴う包装機等の停止頻度が多く、自動化、高速化の面での不都合を有している。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明はこれらの不都合を解消することを目的とするもので、その要旨は、複数枚の層状に重なり合うシート部材を底板部材及び前後の側板部材を備えた収納部に入れ、開るシート部材を開くものであって、上記底板部材を振動可能に支持する支持部材を上下振動可能に設け、底板部材を振動する振動機構を設け、支持部材に上記前後の側板

部材を前後揺動可能に設け、支持部材の揺動位置に拘わらず前後の側板部材を定角度に保持する姿勢保持機構を設けて構成したことを特徴とするシート部材削き装置にある。

〔作用〕

底板部材は支持部材の上下揺動により上下揺動しつつ振動機構により振動し、かつ支持部材の揺動位置に拘わらず前後の側板部材は姿勢保持機構により定角度に保持されるように前後揺動し、シート部材に上下方向の相対ずれを生じさせる。

〔実施例〕

第1図乃至第3図は本発明の好適な実施例を示し、1はシート部材の場合板紙であって、シート部材1は複数枚調状に重なり合っている。

2は収納部であって、底板部材3、及び前後の側板部材4・5で成る。

る如く連結リンク26を駆着し、後側のリンク部材16の下部に調節リンク27を駆着し、調節リンク27を機台7等に連結して構成されている。

この実施例は上記構成であるから、収納部2内に複数枚のシート部材1を入れ、回転板9の回転により支持部材6は支点軸8中心に上下揺動し、プーリ24の回転により底板部材3は振動し、側板部材3が振動しつつ収納部2は上下揺動し、支持部材6の上下揺動により側板部材4・5は上下揺動し、このとき連結リンク26及び調節リンク27の作用で支持部材6の揺動位置に拘わらず定角度を保持すべく前後に修正揺動し、即ち受面 α 及び β は同一方向に保持され、このため第1図と第2図の作動の繰返しにより、底板部材3の上下揺動と側板部材4・5の定角度保持揺動とによってシート部材1に相対ずれを生じさせ、シート部材1の

6は支持部材であって、支持部材6は機台7の支点軸8に上下揺動可能に設けられ、回転板9のローラ10と長孔11の作用で上下揺動し、支持部材6の中間部前後に回転軸12及び支持ピン13により振動リンク14を設け、振動リンク14の上部間に底板部材3を設け、支持部材6の前後部にはリンク部材15・16が枢軸17・18によって前後揺動可能に駆着され、リンク部材15・16に側板部材4・5が設けられている。

19は振動機構であって、この場合前記回転軸12を偏心軸とし、回転軸12をプーリ20・21及びベルト22・23を介してプーリ24により回転し、偏心作用によって底板部材3を振動するように構成したものである。

25は姿勢保持機構であって、前記リンク部材15・16の下部間に前後の側板部材4・5が平行とな

削き作用を得ることができる。

尚、上記実施例の振動機構及び姿勢保持機構は他の手段にしてもよく、たとえば支持部材6をリンクやカムによって振動させたり、側板部材を独立的に修正揺動させるようにしてもよい。

〔発明の効果〕

本発明は上述の如く、底板部材の上下揺動と側板部材の定角度保持揺動とによってシート部材に相対ずれを生じさせ、シート部材の削き作用を得ることができる。

以上、所期の目的を充分達成することができる。

4 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を示すもので、第1図は側断面図、第2図はその作動図、第3図はその横断面図である。

1・・・シート部材、2・・・収納部、3・・・底板部

材、4、5・・・側板部材、6・・・支持部材、19・

・振動機構、25・・・姿勢保持機構。

昭和60年11月28日

出願人 日本たばこ産業株式会社

同 株式会社三協機械製作所

発明者 小 野 秀 一

同 宮 北 嘉 方

同 相 田 智

同 曾 山 秀 雄

代理人 吉 井 昭

同 吉 井



7/100

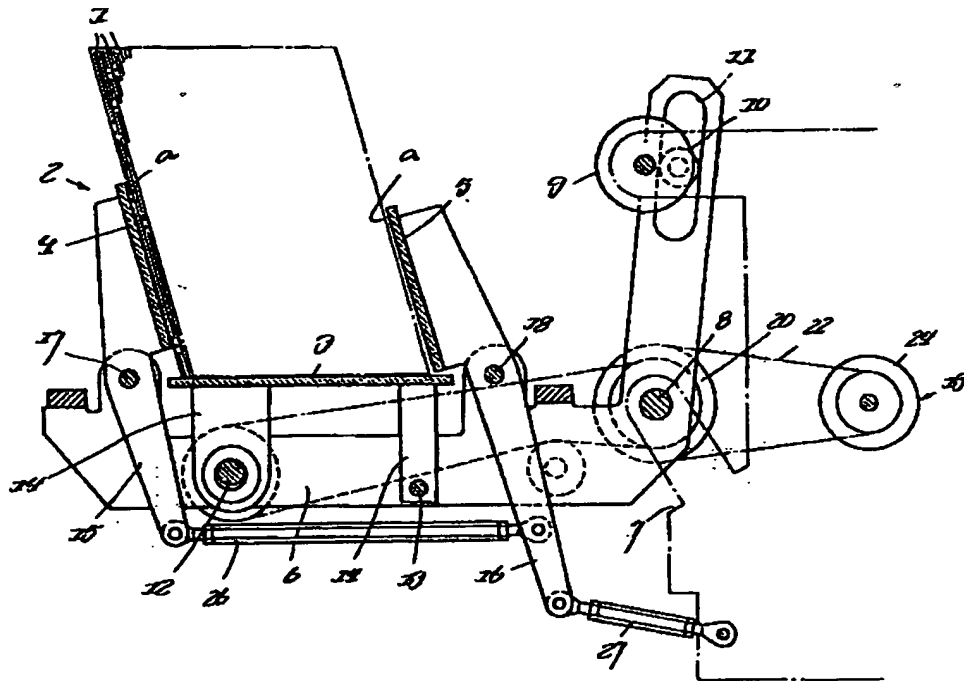


図 21a

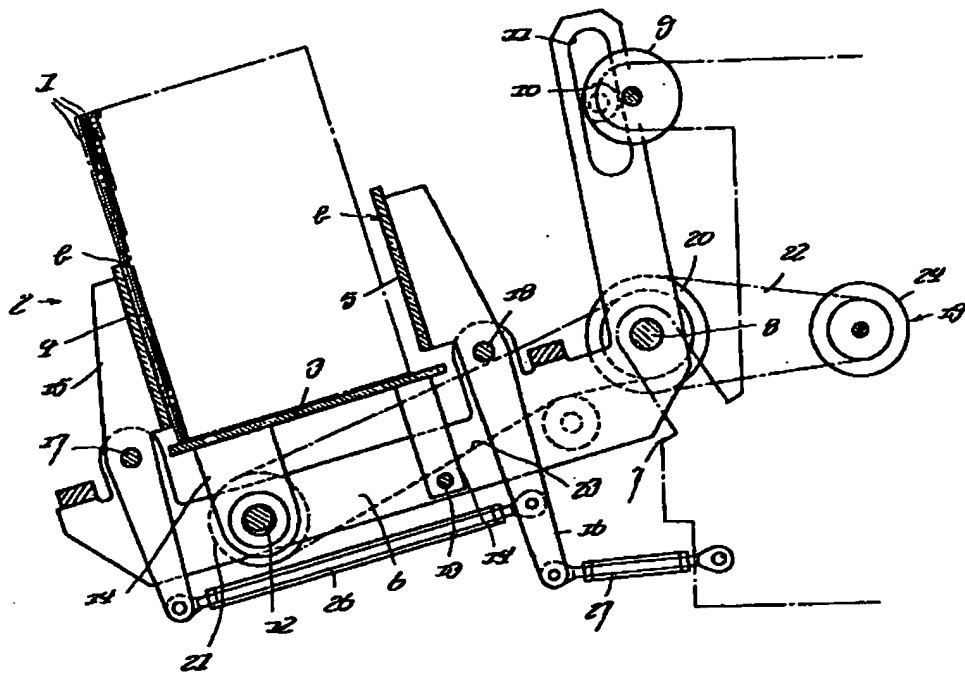
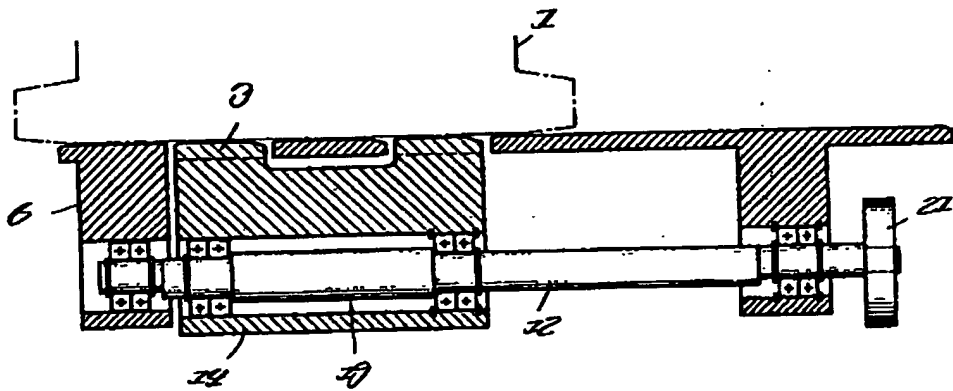


図 21b



第1頁の続き

⑦発明者 相 田 智

新潟県南蒲原郡栄町大字猪子場新田1300番地 株式会社三
條機械製作所内

⑧発明者 曾 山 秀 雄

新潟県南蒲原郡栄町大字猪子場新田1300番地 株式会社三
條機械製作所内